

成田空港を核とした国際航空物流拠点機能強化について

1. 物流の効率化 ③多様な輸送モードの活用推進（国際航空物流拠点の整備（成田空港））

- 我が国の国際航空貨物の競争力強化に向けて、成田空港における滑走路の新設等の「更なる機能強化」に取り組むとともに、航空物流機能を一層強化。

成田空港の更なる機能強化

- 平成30年3月の地元合意に基づき、令和10年度末目途の供用を目指して成田空港の滑走路の新増設を推進。

<事業の概要>

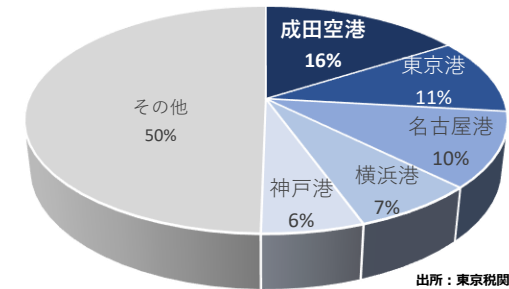
- ・C滑走路の新設（3500m）・B滑走路の延伸（2500m→3500m）
⇒年間発着回数50万回を実現（発着枠は現在30万回）

- 成田空港は国内最大の貿易港であり、滑走路の新増設とあわせ今後も取扱量が増加。既存施設の容量には限界があることから、空港隣接地との一体的運用による航空物流拠点の形成が必要。

<参考>

本年7月に成田空港会社が『新しい成田空港』構想を検討会でとりまとめ、新貨物地区の整備による航空物流機能の集約を図る方向性を提示。

主要港別輸出入額の割合（令和5年度）



出所：東京税関 令和5年分
成田空港貿易概況（速報）を基に作成

『新しい成田空港』構想検討会によるイメージ ※今後の検討により変更が生じる場合がある。

現在の成田空港



土地利用規制の弾力的活用による
空港隣接地との一体的運用

新貨物地区

新旅客ターミナル



成田空港周辺における環境整備

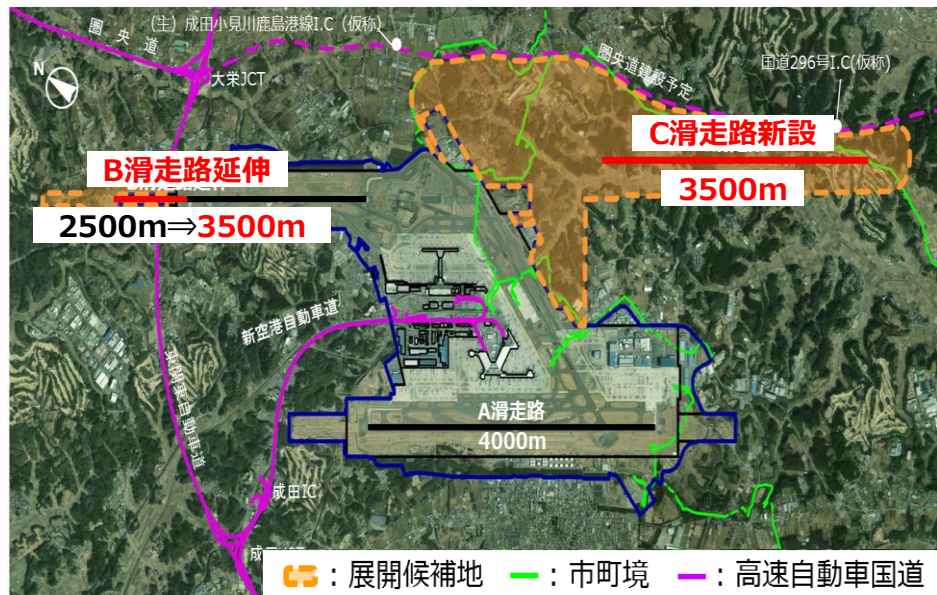
- 成田空港においては、滑走路の新設等により貨物取扱量が増加することから、これらの空港施設整備とあわせた環境整備が必要（千葉県の要望事項）
 - ・成田空港へのアクセス道路の早期整備や圏央道と空港を結ぶ新たなインターチェンジが必要
 - ・成田空港を核とした国際物流拠点における外国人材の活用が必要（特区の活用を含む）

成田空港の更なる機能強化・成田空港周辺における環境整備

○成田空港においては、滑走路の新設等により貨物取扱量が増加することから、これらの空港施設整備とあわせた環境整備が必要。

「更なる機能強化」の整備状況

○令和10年度末目途の供用を目指して成田空港の滑走路の新増設を推進。既に準備工事に着手済み。今後、本格工事に着手予定。



鉄道共同輸送サービスの実証実験

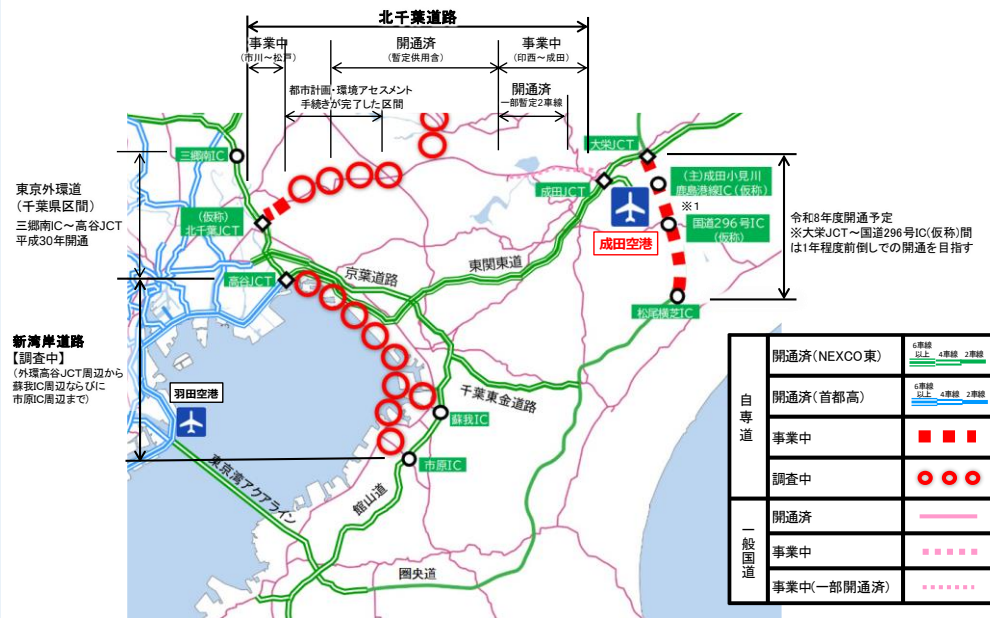
○モーダルシフト推進の観点から、成田空港会社、日本貨物鉄道株式会社等において、関西地区から成田空港を利用して輸出される航空貨物を対象に、パレット単位でも利用可能な鉄道共同輸送サービスの実証実験を開始。

高規格道路ネットワークの整備等の取組

○成田空港周辺の高規格道路ネットワークについて、事業中の箇所に加えて、更なる充実に向けた調査・検討を加速化

【事業中・調査中の箇所】

- ・圏央道（大栄～松尾横芝）は、令和8年度に開通予定※
- ・北千葉道路（市川～松戸区間）は、外環道との接続部で有料道路事業を活用しながら、事業推進中
- ・新湾岸道路は、計画の具体化に向けた概略ルート等の調査推進中



※1 圏央道と空港を結ぶ新たなインターチェンジ（千葉県からの要望事項）

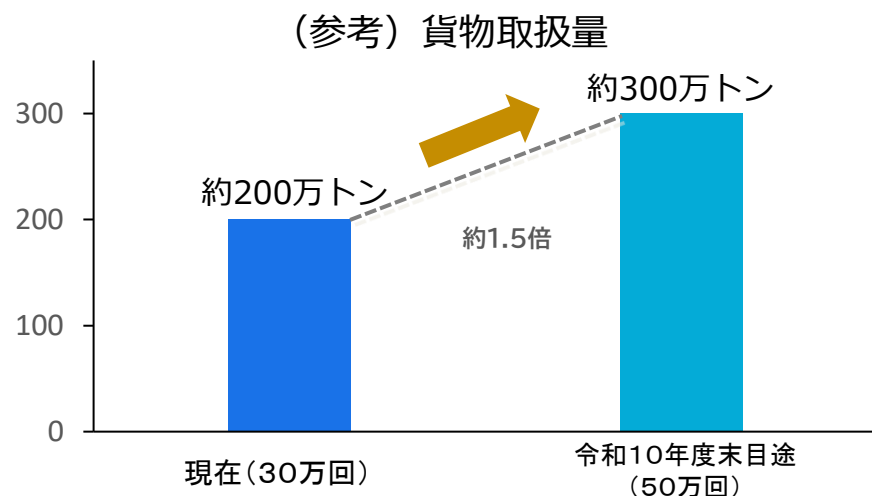
○東京湾アクアライン（上り線：木更津→川崎方面）において、令和5年7月から、土日・祝日に時間に応じて料金を変動させる社会実験の取組（ピークロードプライシング）を実施中であり、効果を分析・評価の上、効果的な料金を検討

成田空港を核とした国際航空物流拠点における外国人材の活用

- 成田空港の更なる機能強化に伴い大幅な増加が見込まれる国際航空貨物に対応するため、航空物流人材の確保が必要。
- 千葉県からは、成田空港を核とした国際航空物流拠点において、特定技能制度による外国人材の活用拡大の要望を受けている。

国際航空物流分野における現状と人材確保の必要性

- 航空物流分野では、人口減少などに伴い慢性的に人手が不足しており、我が国最大の貿易港である成田空港及びその周辺においても顕在化。
- 一方、我が国の国際競争力確保のため、成田空港では滑走路の新設等の「更なる機能強化」を進めており、空港が取り扱う国際航空貨物も大幅に増加する見込み。
- 国際航空物流拠点化する成田空港周辺においては、これに対応するため外国人材の活用も含めた航空物流人材の確保が必要。



出典：成田空港の現状と将来（成田空港会社）より作成

現行制度（2019年より特定技能制度開始）

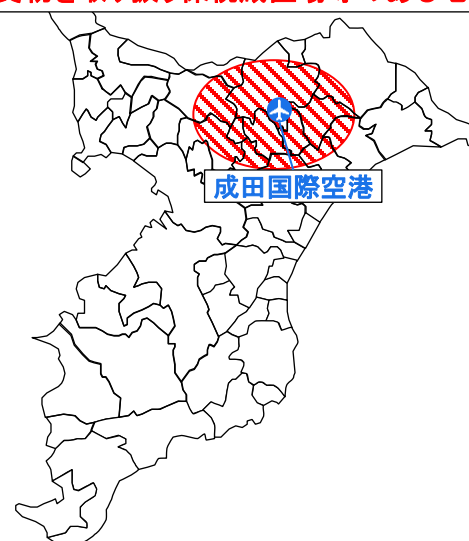
- 空港内のグラハン事業者が、特定技能外国人を活用することが可能。



千葉県の要望（現行の特定技能制度の拡大）

- 空港敷地外の保税蔵置場等において、国際航空物流拠点に係る貨物取扱業務を行う事業者が、特定技能外国人を活用することを可能としたい。
- ※千葉県においては、成田空港の機能強化を契機として、現行の国家戦略特区の区域を拡大したい意向がある。

成田空港の貨物を取り扱う保税蔵置場等のある地域(イメージ)



航空分野(空港グランドハンドリング)における特定技能制度について

【制度運用の背景】

- 空港グランドハンドリングは、近年の訪日外国人旅行者数の増加に伴い、人手不足が深刻化。
- 今後、訪日外国人旅行者数の政府目標（2030年6,000万人）に向けた国際線旅客のさらなる増加等から、人員不足がボトルネックとなることが懸念されるため、2019年4月より外国人材を受入れているところ。

対象となる業務の内容

- 航空機地上走行支援業務
 - ・航空機の駐機場への誘導や移動
- 手荷物・貨物取扱業務
 - ・手荷物・貨物の仕分け、ULDへの積付、取り降し・解体
- 手荷物・貨物の搭降載取扱業務
 - ・手荷物・貨物の航空機への移送、搭降載
- 航空機内外の清掃整備業務
 - ・客室内清掃、遺失物等の検索、機用品補充や機体の洗浄



航空機地上走行支援



手荷物・貨物取扱



手荷物・貨物の搭降載取扱



航空機内外の清掃整備

技能水準の評価方法

- 試験名称：航空分野技能評価試験（空港グランドハンドリング）
- 実施主体：公益社団法人日本航空技術協会
- 実施方法：筆記試験及び実技試験 ※日本語で実施
- 実施場所：国外（フィリピン、ネパール、インドネシア、スリランカ）及び国内で実施

受入れ人数の推移

